

^{朗読会・公開対話} セントゥラン・ヴァラタラジャ 『赤(渇望)』

Senthuran Varatharajah: Rot (Hunger)

作品について

"セントゥラン・ヴァラタラジャ氏にとって2作目の小説である本作では、2つの物語が1つになります。恋人との別れから始まる一年間の物語と、2001年3月9日というある一日の物語です。その日、Aはローテンブルクの自宅で事前の合意のとおりBを殺し、切り刻んで食べます。叙情的な強烈さと哲学的な厳格さを持つ『赤(渇望)』は、私たちの愛する人がいつも遠くにいるということを語っています。たとえその人が目の前にいたとしても、いつも欠けているのです。本作の最初の一文を借りれば、これは愛についての物語なのです。"(出版社S. Fischer Verlagの解説より)

セントゥラン・ヴァラタラジャ氏のプロフィール

1984年スリランカ・ジャフナ生まれ。マールブルク、ロンドン、ベルリンで哲学、プロテスタント神学、比較宗教学・文化論を学ぶ。2016年、デビュー作『前兆が高まる前に』が出版され、数多くの文学賞を受賞し、作家のウラ・ハーンから「長い散文詩」と評されるようになった。2022年、2作目の小説『赤(渇望)』を出版。

日時:2022年10月3日(月)17時30分より19時まで

場所:名古屋学院大学曙校舎403教室(名古屋学院大学白鳥キャンパス)

主催:ゲーテ・インスティトゥート東京

共催:日本独文学会東海支部および名古屋学院大学大学院外国語研究科

後援:科研費「日独越境文学の比較研究」(土屋勝彦)

